

# さわらび

2019. 6. 18 No. 10 文責：大塚

## 早朝からお疲れ様でした



6月16日(日)、保小中PTA合同での廃品回収を行いました。回収に行っていた保護者・地域の方が軽トラックの荷台に段ボール・新聞紙・雑誌・アルミ缶を積んで続々と中学校グラウンドへ到着すると、本校の4名の中学生や保護者・教職員で仕分け・袋詰めです。また、紙類は引き取ってもらおう大英環境機構の車に入れていきました。

「この廃品回収、何年前から？」という声もありました。正確にお答えすることは難しいですが、10年以上とは言えますが、20年？ 30年？……。いずれにしても、藤岡保小中PTAのそれぞれの貴重な活動費として子どもたちのために有効に活用されています。また、中学生は終了後、出してあった麦茶の片付けやグラウンドにゴミが残っていないか見て回ったりしたあと、1時間程度の陸上練習もしました。

その脇で草引きまでしていただいた保護者の皆様、最後までありがとうございました。



## ～お知らせ～

### ■「はるかひまわり」を植えます

アルミ缶回収箱の隣りを花壇にしました。ここには、5月中旬から育ててきた「はるかひまわり」の苗を植えます。西村光平さんに教えてもらいながら、生徒たちが育ててきた苗です。風が強い場所なので防風ネットは張りますが、東西両方から張ることはできません。西側からの強風が多くないことを祈りつつ……これからも見守ってください。

また、もし苗が余ったときは、藤岡小学校や藤岡保育所等

にも配りに行かせていただきます。



※アルミ缶回収の場所はそのままで。

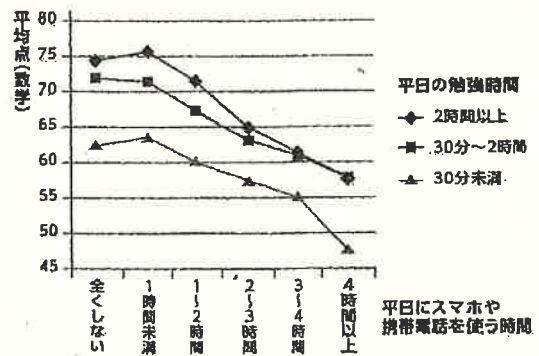
## スマホ・携帯と学力の関係についての、ある調査から

川島隆太さんという脳科学者がいます。「脳の働きを目で見てみよう」という文章が、中学校の国語教科書に載っていたこともある方です。このインタビューのときは、東北大学の加齢医学研究所の所長をされていました。記事の一部を紹介します。

……現在まさに取り組み始めたのは、携帯電話・スマホ(スマートフォン)の問題です。仙台市教育委員会と私たちがいっしょに行きつけ出したデータなのですが、携帯電話やスマホを長時間使うと、子どもたちが学校で学んだものが脳の中で消えていくという恐るべき内容です。

たとえば、家でほとんど勉強しない子がテストで平均点62～63点とれている。その子が家でスマホを3時間くらい使うと、50点台まで下がるのですね。その子にとってテストの勉強は授業で受けたものだけによって成り立っているのですけれども、スマホを長時間使うと学校で勉強したものがなくなっていることを意味しています。たいへんなマイナス作用があるのです。でも、我々おとなが頭ごなしに禁止するのではなく、子どもたち自身にデータから気づいてもらうという教育を始めています……。

### スマホや携帯電話を使う時間ごとに 見た数学の平均点



※「学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト」の仙台市の中学生約24,000名の調査から

川島さんは、「脳の中で消えていくという恐るべき内容」という表現をしています。そして、家庭学習時間が多い子でも、スマホ・携帯の使用時間が長いと学習が定着しないという結果もグラフから読み取れます。

おとなも含めて、スマホ・携帯・ゲーム等との付き合い方を考えることは、保小中やPTAの取組としても大事なことだと思います。